令和６年度　第３回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会【議事概要】

１　日時及び場所

令和６年 12 月 17 日（火）10 時 00 分～11 時 30 分

四国森林管理局　局議室（Web）

２　議題

（１）管内における木材需給、価格動向等について

（２）各分野における現状や今後の見通しについて

（３）意見交換

（４）その他

３　議事概要

【委員会の検討結果】

国産材製品については、依然として建築資材が高騰し、建築費も上昇する中で、住宅着工戸数の減少が続き、構造材を中心に動きが停滞している。製材工場では、出荷量の減少、在庫量の増加、価格の低迷など厳しさが増している。また、来年４月には改正建築基準法等が施行される予定とされており、今後の住宅着工等にも影響することが予想される。

このような中、木材の需給状況については、製材品の引き合いは弱いものの、一方でスギ・ヒノキ材ともに例年より出材量が少ない状況となっており、品薄感から原木の引き合いが高まり、直近では総じて値上がり傾向にある。

素材生産事業については、時期的に最盛期を迎える中、上記のように出材量は例年より減少しているなど、今後の見通しは不透明であるが、仮に生産量が増加することになれば､供給過多となり需給バランスが崩れることも危惧される状況である。

以上の状況を踏まえ、現時点では国有林材の供給調整は行わないこととする。引き続き製材品の需要動向や民有林材の出材状況を見極めつつ、地域の実情に即した供給調整の要否を検討していくこととする。

【主な意見等】

○ 素材生産業

・　木造住宅着工数は、10 月に対前年比でプラスとなるが、木材の需要は低位で県内事業者の生産意欲も低く、原木市場への出荷は低位に推移。燃料・資材・人件費高などから、原木価格の上昇がなければ生産意欲の改善は難しい。

・　材価の動きは鈍い状況が続いているが、生産活動に変化はない。新築戸数の減少が要因と思われる。全ての物価が上昇し現状より落ち込むのではないか。先行きは暗い。

・　作業現場が奥地化しており、作業条件の悪化、就労人員の減少など作業環境は

厳しくなっているが、生産量は概ね予定通りに推移している。現場によっては、積雪等の影響が懸念される。木材需要は住宅価格が高いことから、消費マインドの冷え込みが見られ減少傾向にあると感じる。

○ 原木市場・共販所

・　入荷量は増加傾向にあるが、例年に比べ少ない。原木の不足感から、スギ・ヒノキ共に引き合いがある。今後入荷量は増加してくると思われる。新築住宅着工戸数が少なく製品価格は期待できないが、原木流通が少ないことから原木価格の値下がりはないように思われる。

・　民材の入荷量は少ない。経費上昇、丸太価格低下により民間素材生産の意欲が低下。スギ・ヒノキ共に一部価格が上昇。製品の動きは悪いが、チップ材は不足しており競争が激しく価格が上昇。一般向けからチップ向けに丸太が流れ、丸太不足にとなり価格が上昇しているかもしれない。チップ材等の下支えで価格は下がらないと思われるが、製品の動きが不透明であり先行きを読むのは難しい。

・　入荷は、９～11 月（前年比）スギ 106%、ヒノキ 92%で順調に入荷。現状で推移すると思われる。スギ・ヒノキとも引き合いは良くなってきた。スギは先行き不透明だが、３・４ｍの 24 上材が強含み。ヒノキは出材量減で概ね横ばいで推移。住宅着工数の減少により価格は横ばいで推移する見通し。

○ 製材工場等

・　原木調達・稼働状況は安定した入荷で昨年並み。今後も現状で推移。製品出荷・価格については、下げ止まり感はあるが、荷動きは弱い。建築価格の高騰は変わらず、建売中心に相当弱含み。今後も期待できない。現状を受け入れ推移しているものと思われる。

・　ヒノキの出材量が少なく（特に３ｍ材）、必要量を確保できていない。通常通り稼働しているが、一部スギを確保し生産調整。ヒノキの出材が少ないのは、新規製材工場等による新たな需要でスギ原木価格が高騰したことが要因の一つでないか。根本的には素材生産事業における人員不足だと思われる。10 月に入り販売量は増加したが、原木不足で原木高、製品安と厳しい状況である。年内は横ばいで推移する見通しだが、年明けは不透明。現状では、安定価格、安定供給は難しいと感じる。

・　原木の出材は、今までにないぐらい少ない。スギはウッドショック時より高いものもある。高齢化、大型製材への直送等により出材の減少とは聞くが、本当のところはどうなのか。原木価格の割に製材品の価格は上がらない。家が建たないし、小さくなっている。この状態が続けば製材、木材業は厳しい。